

燦々

SANSAN
光り輝く



農薬勉強会を開催

特集

農薬メーカー7社が一堂に会し、農薬に関する知識を深める

准組合員利用者懇談会を北広島市のくるるの杜で開催しました。

JAとまこまい広域広域
燦々光り輝く
No.284



編集・発行

〒059-1693
JAとまこまい広域本所
TEL 0145-272241
北海道勇払郡厚真町錦町10番地2
FAX 0145-273941

令和8年9月10日
ホームページアドレス
http://www.ja-tomakomai.co.jp
メールアドレス
info@ja-tomakomai.co.jp

印刷 株式会社須田製版

レシピ提供 ● 料理研究家 和田麻紀子

家族で楽しむおいしい一皿

食欲の秋! キノコの味、食感、香りを楽しむ



キノコスパゲティ

キノコのうま味の
相乗効果を味わう

材料(2人分)

好みのキノコ	250g(※)	オリーブ油	大さじ1
ベーコン	40g	赤唐辛子	適宜
小ネギ	5本	しょうゆ	大さじ1
スパゲティ	180g	バター	10g
塩	大さじ1+2つまみ	こしょう	適宜
ニンニク(みじん切り)	1片(5g)		

※今回はシメジ小1パック、マイタケ1パック、エリンギ1/2パックを使用

作り方

- ①シメジは石突きを切ってばらしておく。マイタケはそのままばらし、エリンギは食べやすい大きさにカットする。ベーコンは幅1cmに、小ネギは長さ4cmにカットしておく。
- ②湯2L(材料外)を沸かして塩(大さじ1)を入れ、スパゲティを袋の表示時間通りにゆでる。
- ③フライパンにニンニクとオリーブ油、赤唐辛子を入れて弱火で加熱する。香りが出たらキノコとベーコン、塩(2つまみ)を入れ、軽く炒めたらふたをしてしんなりするまで中火で2分加熱する。
- ④しょうゆとバター、小ネギ、スパゲティのゆで湯を大さじ2入れて炒める。ゆで上がったスパゲティを入れて絡め、塩(分量外)・こしょうで味を調えて皿に盛り付け、出来上がり。

うま味の強いエノキタケが主役。
味見でなくなってしまうおいしさ!

エノキタケの唐揚げ

材料(2人分)

エノキタケ・小1パック(100g)	片栗粉	適量
大葉	黒こしょう	適宜
おろしニンニク	レモン	適宜
A 酒		
しょうゆ		

作り方

- ①エノキタケは石突きを切って10等分(大葉の枚数分)に分けてAを混ぜ合わせたものに絡め、片栗粉をまぶし付ける。
- ②大葉に片栗粉をまぶして①に巻きつける。
- ③フライパンや揚げ鍋に2cmくらい油(材料外)を入れて熱し、②を入れ160度でカリッとするまでひっくり返しながら揚げる。お好みで黒こしょうを振り、レモンを添えて出来上がり。

ポイント

エノキタケの先端を程よくばらすとカリッとした食感になります。焦げやすいので低めの温度で揚げましょう。

アレンジ

- Aにおろしショウガを加える
- Aに青のりを加えて磯辺風に





▲会場の各ブースがにぎわう



▲説明を聞く参加者たち



▲試験圃場で土壌について説明する JA 担当者



▲土壌断面を見学する参加者たち



▲ホクレンによるアンケート回答を聞く生産者たち



農薬勉強会を開催 農薬メーカー7社が一堂に会し、 農薬に関する知識を深める

こされた圃場の土や土壌断面を間近に見ながら理解を深めた。土を手に取って観察する様子もあり、土壌への関心の高さがうかがえた。

土壌断面を見学したのち、本会場へ戻り各メーカーのブースを生産者それぞれが回りながら自身の圃場での農薬や生育に関して担当者へ相談したり、各メーカーの商品の話や肥料や資材を選ぶことが大切だと思ったという声が挙がった。また、事前の病害虫対策アンケートに対してホクレン苦小牧支所生産資材課の担当者が回答し、雑草対策、展着剤・混用についての質問への対策やアドバイスを述べた。

勉強会後は敷地内にある検査場下屋で懇親会を行った。生産者と各メーカー担当者が参加し、炭を囲んで焼き肉を食べながら農薬や肥料について話すだけでなく、談笑しながら交流を深め、同会は終了した。全体統括を行った営農部営農課クリーン係の担当者は「生産者の土壌に関する知識の向上、農薬・肥料に関する困りごとの解決の場になっていたらうれしい」と話した。

協賛メーカー御芳名一覧（順不同）



ホクサン株式会社



北興化学株式会社



クミアイ化学工業株式会社



日産化学株式会社



NICHINO
日本農薬株式会社



日本曹達株式会社



■・BASF
We create chemistry
BASFジャパン株式会社

8月4日、厚真町の本所にある多目的倉庫を本会場に、ホクレンと東胆振農業改良普及センターの協力のもと、農薬メーカー7社（ホクサン株式会社、北興化学工業株式会社、クミアイ化学工業株式会社、日産化学株式会社、日本農薬株式会社、日本曹達株式会社、BASFジャパン株式会社）を招き農薬勉強会を開催した。同会は生産者の農薬に関する悩みの相談・解決をするため、農薬メーカーと生産者の交流を目的に開催。当日は管内の生産者約40人が集まりにぎわった。

勉強会に先立ち、（株）SFNの厚真町本郷にある緑肥圃場の土壌断面を見学し、営農部営農課クリーン農業係の担当者が同圃場の土壌について説明した。土性は砂壤土、軽石、赤色軽石、泥炭の順になっていることや、根はりと土壌の硬さの関係について解説し、参加者たちは掘り起

燦々

SANSAN
光り輝く

No.284 CONTENTS

- 01 特集 農薬勉強会を開催
農薬メーカー7社が一堂に会し、
農薬に関する知識を深める
- 03 カメラレポート
- 07 ・とまこまい広域産箱南瓜の受入開始
・JAとまこまい広域馬鈴薯生産部会馬鈴薯出荷開始
- 08 米・畜産関係について意見交換
- 09 ・理事会報告
・JAとまこまい広域杯 少年サッカー大会
- 10 期待の農力 中澤誠士朗さん
- 11 ワンポイント営農情報
- 12 あぐり講座
- 13 JAからのお知らせ
- 14 令和8年度 組合長会海外視察研修報告
- 裏表紙 家族で楽しむおいしい一皿
食欲の秋！キノコの味、食感、香りを楽しむ



准組合員懇談会「親子で農業体験バスツアー in 北広島市 くるるの杜」を開催し、准組合員の親子9組27人が参加しました。

広域

准組合員懇談会開催

収穫から加工まで、親子で農業体験

8月6日に、准組合員懇談会「親子で農業体験バスツアー in 北広島市」の杜を開催し、准組合員の親子9組27人が参加した。准組合員による地域農業応援団としての各種事業利用を地域農業振興に関わる大きな力とするため、農業をより身近に感じてもらう、様々なご意見を組合事業に反映することを目的として、利用者懇談会を開催している。

当日は苫小牧支所からバスに乗り、北広島市の「ホクレンくるるの杜」へ向かった。同施設敷地内にある体験農場でブルーベリーの収穫体験をし、担当者から新鮮な実や熟した実の見分け方、実の採り方の説明を聞き、収穫に臨んだ。説明をもとに実を見分けながら参加者たちは和気あいあいと収穫を楽しんだ。

収穫したブルーベリーをもって調理加工体験施設へ移動し、アイスクリーム作りを体験。担当者の説明を聞き、親子で協力しながら作業を進め、途中で途中でアイスクリームの作り方やブルーベリーに関するクイズに答えながら作業した。最後の冷やす工程では氷と材料が入った袋をタオルで包み、2人で両端をもち、一生懸命に振った。10分振り回して完成したアイスクリームを参加者たちはおいしそうに味わった。「ブルーベリーの味もすっかりしていたし、自分たちで頑張って作ったからおいしかった」と感想を話した。参加者たちは収穫から加工まで体験し、農業について理解を深めた。

体験後、農村レストランのbuffetを楽しみ、道内の野菜を使った料理を味わった。昼食後は売店で取り扱っているところまこまい広域産の野菜を見たりして各々楽しみ、同会は終了した。参加者は「収穫から加工まで子供たちと一緒に農業体験ができ、楽しめてよかった」と振り返った。



▲自分でブルーベリーを収穫



▲親子で協力して調理



▼手作りしたブルーベリーアイスを実食



▲仲良くアイスづくり



▲参加者全員で集合写真

穂別

地域農業の活性化にむけて組合員、役職員が交流

穂別支所生産者交流会

8月7日、穂別支所はむかわ町穂別にある選果場で「穂別支所生産者交流会」を開催した。

同交流会は組合員相互及びJA役職員との交流を通じて地域農業の活性化とJA事業の利用度向上を図ることを目的に開催している。

会場には組合員・JA役職員合わせて、昨年の過去最高120人の参加者数をさらに超える124名が集まった。

全員の手には飲料が行きわたったタイミングを見計らい、来賓の石橋代表理事専務より「地域の方がこれほど集まる機会はないかな」と思います。この機会を利用して、たくさんの交流をしていただき」と乾杯の挨拶ののち、親睦会が始まった。子供の参加人数も約20人と多く、食事の後に花火を楽しんだ。大人たちはお酒も入り、賑やかな雰囲気の中で、笑顔と会話が弾み、笑い声があちこちで響いていた。



▲大勢の生産者が集まった



▲会場のあちこちで笑い声が飛び交う



▲花火を楽しむ子供たち

白老

「白老牛農産物フェア」が開催

夏の熱気あふれる大盛況！

8月8日、白老支所は毎年恒例の「白老牛農産物フェア」を開催した。当日は夏晴れに恵まれ、絶好のフェア日和となるなか、開場を待ちわびた多くの来場者で大賑わいとなった。特にお盆休み直前ということもあり、来場者は「久しぶりに集まる家族と美味しいものを囲みたい」と笑顔で話した。

今回の目玉は、白老町の生産者の大浦夕輝さんが丹精込めて育て上げた最高峰・A5等級の白老牛。大浦さん自らも販売ブースに立ち、こだわりを直接伝えながら買い物客との温かい交流を楽しんだ。

また、農産物コーナーには大人気のメロンをはじめ、採れたてのスイカやとうもろこしがずらりと並んだ。販売が開始されるやいなや、わずか30分で牛肉の人気部位や一部の農産物が完売するほどの大盛況ぶり。さらにさくら米やおくろみそ、ハンバーグやカレーなどの同JA特産品を目当てに訪れる方も多く、会場内の各ブースはどこも終始活気に満ちていた。

毎年訪れているという来場者の女性は、「普段スーパーではなかなかお目にかかれないヒレステーキなどが手に入るの、毎年本当に楽しみにしています。お野菜も新鮮で美味しくて安いので、ついたくさん買ってしましました」と満面の笑みで話してくれた。



▲メロンやスイカを買い求めるお客さん



▲大人気な採れたてのとうもろこし



▲生産者の大浦さん(一番奥)とお客さんの交流販売



▲白老牛を買い求めるお客さん

丹精込めて育てられた農畜産物を通して、生産者と地域住民が笑顔で交流する、夏空に負けない活気にあふれたイベントとなった。

早来

令和6年度新規就農者 生乳を初出荷

酪農家としての大きな一歩

8月1日(土)苫小牧市植苗の池田美咲さんが生乳を初出荷し、酪農家としての大きな一歩を踏み出した。美咲さんは、農業系の大学に進学し、卒業後はスイスで1年間、アニマルウェルフェアに基づいた放牧酪農を学んだ。帰国後は近隣の牧場で働きながら、より実践的な知識や技術を習得し、令和6年4月に新規就農を果たし、初出荷に向け準備してきた。

初出荷を迎え美咲さんは「やっと出荷することができた。牧場を継承してくれた祖父母、作業を手伝ってくれる両親、夫、日頃から気にかけてくれる地域の方々のおかげ。とても嬉しい」と笑顔で話してくれた。



▲夫の侑平さんと



▲現在ホルスタイン種19頭、ジャージー種2頭を飼育している

初期投資を抑える為、搾乳した生乳をバケットでバルククーラーまで運ぶ昔ながらの方法で搾乳している。一頭一頭ごとにバルククーラーへ入れる為、乳質状態がよく分かり個体管理しやすいという良い点もあるが、バケットが重たく作業が大変であるため、作業動線の見直しや軽労化を今後の課題としている。

「今後の目標は」という問いに「再来年達成に向けて、30頭規模の放牧酪農を目指したい。牛一頭一頭としっかり向き合いたい為、頭数をそれ以上増やす予定はない。この牧場を、将来にわたって守り、育てていけるよう、日々の一歩一歩を大切に積み重ねていきたい」と話してくれた。

厚真

青年部厚真支部が道内視察研修を実施

農業学習施設 KUBOTA AGRIFRONTで スマート農業の知識を深める

8月7日、青年部厚真支部(支部長 渡部勇樹)は道内視察研修を実施し、盟友15名が参加した。同研修は地域農業の担い手の交流を図るとともに、知識を深め、厚真町における農業振興に寄与することを目的に開催している。

今年度の視察先は北広島市にある農業学習施設 KUBOTA AGRIFRONT を選定し、主にスマート農業における、農業の省力化や生産性向上につながる技術について研修を行った。同研修では、トマトなどの栽培に用いられている、特殊なフィルムを用いて必要な養液だけを供給し余分な水分や雑菌を通



▲スマート農業について学ぶ部員



▲集合写真

さない「アイメック栽培」をはじめ、ハウス内の温度や湿度、日射量などの環境を管理する「ハウスナビアドバンス」についての説明を受けた。また農業散布を自動で行う「スマートシャトル」や、人工光を利用して植物を栽培する「PLANTX」の人工光型植物工場も見学し、スマート農業が省力化や安定生産を支える重要な技術であることを学んだ。

視察を終えた青年部員は「今回の研修を通して、生産性の向上と農業者の働きやすさをどう両立すればいいか改めて考えることができ、今後の営農に活かせる良い機会だった」と話した。

追分

教職員らがアサヒメロンの生産現場を視察

地域農業への理解を深め、 教育現場での活用へ

夏本番を迎え、アサヒメロンの出荷が最盛期を迎える中、8月4日、「安平まるごと授業づくり研究集会の一環として、安平町の特産品「アサヒメロン」の生産圃場と集出荷施設の視察が行われた。

同研究集会は、道内の小・中・高校、大学の教員らで構成する北海道歴史教育者協議会が主催し、安平町教育委員会が後援。地域の人や産業などに直接触れ、社会科や総合的な学習の時間に生かせる教材を見つけ、地域とつながる授業づくりにつなげることを目的に開催された。

一行はまず、追分旭地区でアサヒメロンを生産する山田晋也さんの圃場を訪問。ハウス内を見学しながら、アサヒメロンの栽培方法や日々の管理、品質の高いメロンを生産するための工夫などについて山田さんから説明を受けた。参加者は、実際に栽培されているメロンを間近に見ながら、生産者ならではの話に熱心に耳を傾け、地域を代表



▲生産現場に触れ、農業への理解を深める



▲生産現場でメロン栽培への理解を深める

する特産品がどのように育てられているのか理解を深めた。

その後、アサヒメロンの集出荷施設を見学した。当日は出荷・共選作業が行われていなかったため、施設内を巡りながら、収穫されたメロンが集荷され、選果・箱詰めを経て出荷されるまでの流れや、共選施設の役割について説明を受けた。また、選果基準や品質管理など、産地全体で品質をそろえ、「アサヒメロン」のブランドを支える仕組みについても紹介した。

今回の視察では、生産圃場から集出荷施設までを巡り、アサヒメロンが生産され、消費者のもとへ届けられるまでの流れを学んだ。参加者にとって、生産者の取り組みや地域農業を身近に感じ、安平町の特産品への理解を深める機会となった。

厚真

水稻稔実調査を実施

今年の収量予測に活用

8月25日、JAとまこまい広域厚真支所は、厚真町内の圃場を対象に水稻稔実調査を実施した。調査にはJA職員のほか、東胆振農業改良普及センター、厚真町、ホクレン苫小牧支所、NOSA北海道みなみ東部センターの職員も協力。雨が降りしきる中での調査となったが、予定どおり実施した。

毎年8月下旬に行っている同調査は、収穫時の水稻の収量を予測することを目的としている。調査では、1圃場につき3か所を選定し、各調査地点で欠株のない連続した7株の稈長、穂長、穂数を計測。その後、調査した株からサンプルとして20本の穂を採取した。総勢12人が3班に



▲雨が降る中調査する職員



▲採取したサンプルの穂数をカウント

分かれ、厚真町内29か所の圃場を調査。採取した穂は、1穂ごとの粒数を数え、総粒数と不稔粒数をカウント。総粒数から不稔粒数を差し引くことで、稔実粒数を算出した。

調査結果を昨年と比較すると、平均穂数は1.5本増加した一方、一穂総粒数は2.1粒減少した。不稔率は4.2%で、昨年より0.5ポイント低下。また、稔実粒数は1.7粒少ない傾向となった。一方、総粒数は昨年と比べて多い傾向が見られた。

今回の調査結果をもとに、収穫時の収量予測に役立てていく。

ホクレン苫小牧支所との意見交換会を開催 米・畜産関係について意見交換

JA とまこまい広域は8月18日、厚真町の本所総合営農センターでホクレン苫小牧支所との意見交換会を実施した。ホクレンと JA 役職員、青年部、女性部ら総勢58名が出席し、米や畜産関係について意見交換、議論を行った。

同 JA 堀弘幸組合長とホクレン苫小牧支所の跡部敏郎支所長の挨拶で開催された意見交換は、販売・物流部門と購買・営農支援部門に分けて、各担当より重点取組事項の説明後に質疑応答、意見交換の時間を設ける形で実施した。

ホクレン同支所の米麦農産課より令和8年産米の作付け動向、備蓄米などの情勢認識、令和8年産米概算金について説明。作付けは前年並みで生育状況は全道的に平年並みで茎数がやや多く平年作以上の見込み。政府備蓄米について、売渡し後の在庫見込み32万tと8年産備蓄買入21万t合わせて53万tあり、今後の需給状況を見定めた上で買戻しを実施される見込みで15～20万t水準の規模で進む見通しであるが、在庫量は過去最高水準である。持続的な生産販売と、適正な共計運営との両立を図る観点で概算金を設定する。また、政府の買戻しに応じて販売計画に反映すること、価格だけで比較されない取引の拡大、戦略的に販売し、単年度で全量売り切ること、機動的に追加払いを実施す



▲ホクレン苫小牧支所跡部支所長による挨拶



▲JA 役員による質問

る方針を示した。出席した役員からは「生産者も消費者も納得する価格設定をすることが大切で、お互いに理解しあい持続可能な生産をする必要がある」と意見が挙がった。

酪農畜産関係では、牛乳乳製品需要の低迷により季節的な生乳需給の大幅緩和と乳製品在庫の積み増しが課題で、全道段階や道央・道南地区と連携し、需要の拡大に取り組むことや、乳用種肥育牛の減少への対応として、販売価格の向上と生産費を上回る仕入れ価格を目指すとともに、交雑牛の集荷と生産拡大に向けた早期肥育の実用化に取り組むことを説明した。

営農支援部門では取組方針として、生産性向上に向けた技術支援、現場に即したスマート農業の推進、労働力不足課題への対応、技術力向上の支援・人材育成、JA コネクトを活用したアグリポート記事等の情報発信の5つの柱を掲げていることを説明した。その中で、技術力向上の支援・人材育成として農作業安全について生産者自ら考え、農作業事故ゼロに向けて取り組む体制の構築に向けた講習会を青年部や女性部を中心に実施していると話した。

終始活発な意見交換が行われ、同会は石橋公昭専務の挨拶で閉じられた。



▲説明を行うホクレンの担当者



▲意見を述べる青年部員

とまこまい広域産箱南瓜の受入開始 JA とまこまい広域南瓜生産部会穂別支部

8月6日より、JA とまこまい広域南瓜生産部会穂別支部（石崎憲一支部長）はむかわ町穂別地区で生食用南瓜の出荷を始めた。

同部会では、えびすとほっこりうららの2品種を主軸に作付け、関西・中国・四国地方を中心に出荷される。今年度の穂別地区の作付面積は約303ha、そのうち生食用南瓜は約111ha の出荷を計画している。

同日には、穂別支所選果場にて目慣らし会が実施され、JA 職員から収穫・選別・出荷の注意点について説明するとともに、見本の南瓜を見ながら規格などについて生産者と確認した。



▲出荷された箱南瓜



▲目慣らしの様子

JA とまこまい広域馬鈴薯生産部会馬鈴薯出荷開始

毎日の目慣らしで高品質を維持

JA とまこまい広域馬鈴薯生産部会は8月18日、厚真町上野地区にある馬鈴薯選果施設で、生食用メークインの選果作業を開始した。本年産は、1,743.6t の出荷、販売高192,965 千円を目標に掲げており、10月ごろまで選果作業が続く予定となっている。

当 JA 管内では約65ha のメークインが作付けされており、8月中旬から本格的な収穫作業が始まっている。収穫された馬鈴薯は生産者がハードコンテナで選果施設へ持ち込み、原料の受け入れを行う。初選果では、生産者1件分、約15t の原料が選果ラインに投入され、今シーズンの出荷に向けた作業が本格的にスタートした。

選果作業は、まずハードコンテナで搬入された原料を選果ラインに乗せ、1次選果で腐れの有無を確認する。その後、2次選果では傷、病害虫による被害、奇形がないかを確認し、不良品を取り除いていく。さらに、それらを通じた原料は規格に応じて A 品、B 品に仕分けられ、箱詰めされて出荷される。

同部会では、高品質な馬鈴薯を出荷するために毎日の作業開始前に担当者が「目慣らし」を行い、その日の原料の状態や選別基準を共有している。選果ラインの各工程においても、作業員が目視で一つひとつ確認し、複数の段階でチェックを行うことで、見落としの防止に努めている。

選果された製品は、JR コンテナやトレーラーなどを利用して主に西日本中心に出荷する。収穫作業は8月下旬にピークを迎え、10月ごろまで選果作業を行う予定だ。



▲選果作業前の目慣らしの様子



▲選果作業の様子



▲機械による規格分け

さんさんかがや 期待の農力



～幼い日の憧れを、今は仕事に。
「いつか父を超える」若き農業者の挑戦～



なかざわ せい し ろう
中澤 誠士郎さん(25歳) 安平町追分美園

小学生の頃、絵に描いたのは大きなトラクターだった。
安平町追分まで育った誠士郎さん。幼い頃から農業は身近にあり、両親が楽しそうに働く姿を見ながら育った「農業って楽しそうだな。子どもの頃に抱いたその思いは、いつしか自身の将来へとつながっていった。」
札幌日本大学高等学校を卒業後、大学へ進学。当初は大学卒業後に社会人経験を積み、それから農業の道へ進むことを考えていた。しかし、予定より早く地元へ戻ることとなり、幼い頃から心にあった農業の世界へ飛び込んだ。
「なぜ？」を考える農業の面白さ
実際に農業を始めてみると、子どもの頃に外から見ていた農業とはまた違う面白さに気付いたという。
「結果には必ず原因があると思っています。なぜこうなったのかを考えて、原因を探して、次はこうしてみよう」と試す。それが良い結果につながったときが楽しいですね。
ただ作業をこなすのではなく、結果を振り返り、次の一手を考える。そんな試行錯誤の繰り返しに農業の面白さを感じている。
「仕事なんですけど、ゲームに近い感覚もあります。『つくりアタリ』、また次のステージに進むような感じなんです」と笑う中澤さん。幼い頃から憧れていたトラクターをはじめ、さまざまな農業機械を操作できることも楽しみの一つだ。
一方で、思い通りにいかないこともある。特に難しさを感じるのが天候だ。ど

れだけ頑張っても、天気には勝てません。それでも、思うような結果にならなかったときには「なぜ」を考え、次につなげる。そうした経験を一つずつ積み重ねながら、農業と向き合っている。
父と意見を交わし、より良い農業へ
現在は父・浩幸さんとともに約6,000aを作付けし、秋小麦、春小麦、甜菜、スイートコーン、黒大豆、黄大豆を栽培している。
経営全体の大まかな計画を立てるのは浩幸さんだが、誠士郎さんに任せられる仕事も多い。任せてもらえることが増える、と、やっぱりやりがいがあります」と話す。
日々の農作業では、親子で意見を交わすことも多い。特に作業の効率化については、もっと良い方法はないかを二人で考え、誠士郎さんから「こつちのやり方の方がいいんじゃない？」と提案することもある。
そんな意見にも浩幸さんはしっかりと耳を傾けてくれる。父から教わるだけではなく、時には息子から父へ、互いの考えを尊重しながら、より良い農業を目指す。二人の間には、親子であり、ともに農業を支えるパートナーとしての信頼関係が感じられる。
またJAとまこまい広域青年部追分支部の活動にも積極的に参加。メロン即売会や地域イベントなどを通して仲間との交流を深めながら、新たな知識や経験を吸収している。
目標は「いつか父を超えること」
誠士郎さんは、これからの農業についてもしっかりと将来を見据えている。
「今後は作付面積を増やして経営規模を拡大することにも、農業機械の自動化などを取り入れ、より効率的な営農を目指していきたい」という。
そして、何より大きな目標がある。
「いつか父から経営を引き継いで、自分が代表になったときに恥ずかしくない農業者になりたい。そして、いつか父を超えたいです」
小学生の頃、憧れを込めて描いたトラクター。今、その運転席には自分自身が座っている。
一つの経験を次へつなぎ、一つの課題をクリアすれば、また次のステージへ。いつか父を超えるその日を目標にして、誠士郎さんの挑戦は続いていく。

理事会報告

令和8年6月9日(火)に総合営農センター1号室で第6回理事会が開催され、次の事項について報告、協議、承認がされました。

報告事項

1. 一般報告と当面する諸行事について
2. 4月末財務報告について
3. 組合員の異動について
4. 固定資産の取得、処分について
5. 内部監査の結果について
6. 経営定期点検の結果について
7. 第1四半期余剰金の運用報告について
8. 第2回 ALM 委員会の報告について
9. 第2回コンプライアンス委員会の報告について
10. 令和8年度給与改定について
11. JAバンク基本方針に基づく「体制整備モニタリング報告」について
12. JAバンク基本方針に基づく「経営管理資料」のうち農林中金が定める事項の報告について
13. マネロンリスクに係る取組状況について
14. 准組合員懇談会開催要領について
15. 8年産米穀の出荷契約について
16. 7年度北海道米(うるち米)啓発普及事業報告について
17. 8年度家畜共進会・枝肉共励会の予定について
18. 8年肥料年度(令和9営農年度用)取扱い要領について
19. 購買・販売部門の与信審査の結果について

協議事項

1. 組合員訪問の実施について

付議事項

- 議案第1号 職員就業規則の一部改訂および副業要領の制定について
議案第2号 給与規定の一部改正について
議案第3号 情報セキュリティ基本規程の一部改正について
議案第4号 マネー・ローンダリング等への対応に関する規定の一部改正について
議案第5号 業務分掌表および職務権限表の一部改正について
議案第6号 事業与信管理規定の一部改正について
議案第7号 出資の減口と譲渡について
議案第8号 理事の貸付について

JAとまこまい広域杯 少年サッカー大会

当JAでは、地域住民の方へ「食」と「農」に対する理解を促進するため、地元少年サッカークラブチームと連携して、下記日程にて開催いたします。当日は農業・JA紹介(クイズ、いも拾い等)を予定しております。

開催日時: 令和8年10月4日(日)

午前8時30分(雨天決行、雷雨中止)

開催場所: 安平町

はだしの広場(安平町早来大町143)



昨年の様子

さんさん あぐり講座

胆振農業改良普及センター東胆振支所

水田の土づくり

1 管内の水田土壌の特徴

JA とまこまい広域の土壌分析データより、管内の水田土壌は①有機物が少なく可給態窒素（地力）が低い、② CEC（肥料持ち）が低い傾向があります。可給態窒素や CEC を上げるためには継続的な有機物投入による土づくりが重要になります。

2 稲わらを有効活用

収穫後の稲わらを効率的に分解させることで地力の向上（腐植含量向上、カリ補給）が期待できます。稲わらの分解を促進させるためには以下を組み合わせることが有効です。

- (1) 収穫後、ほ場が乾き、地温が高いうち(早期)にすき込む
- (2) 稲わらをできるだけ細かくし、土壌微生物が活発である土壌5cm 以内にすき込む
- (3) すき込み時にアルカリ分を添加する(ケイカルなど)
- (4) すき込み時に土壌微生物の活動を活性化させるために窒素分を添加する

秋の施用例) ケイカル基準量(または慣行施用量) + 硫安10~20kg/10a

※ 厚真町で実施した試験では、無処理区と比較してケイカル施用のみで4%、ケイカル + 硫安10~20kg/10a 施用で12.4% 程度、稲わらの分解が促進されました

3 高温年は特にケイ酸が必須

高温年の水稻は茎が軟弱化し、下位葉の枯れ上がりが早まることで倒伏が発生しやすくなります。また、登熟期間の転流阻害などにより登熟が急速に進むことでタンパク質含有率が上がりやすくなります。

ケイ酸を積極的に投入することで、①受光態勢の改善による光合成・転流促進、②茎や葉の剛直化、③下位葉の枯れ上がりの抑制、④根の活力向上、⑤水利用効率の向上などが期待でき、いずれも高温条件時に効果を発揮します。R6 の実態調査では土壌中のケイ酸含有量が高い水田ほどタンパク質含有率が低くなりました(上図)。また、高温年でも高収量・高品質の水稻生産を行っている管内の農業者は積極的にケイ酸資材を投入しています(下表)。

ケイ酸分を継続的に投入し、土壌含有量を高め、気象変動に強い土づくりを目指しましょう。

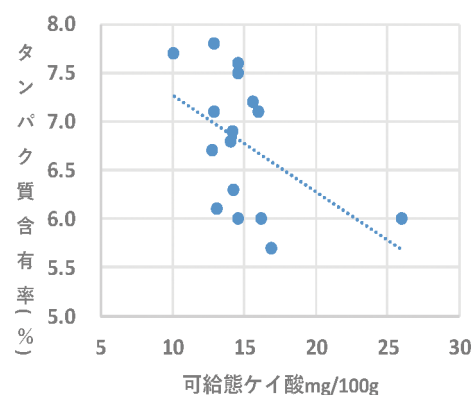


図 土壌中の可給態ケイ酸とタンパク質含有率の関係 (R6 厚真町、安平町、むかわ町 計16 戸)

表 優良農家のケイ酸資材施用量(R5)

農家	資材名	投入量
A	ケイカル	80kg/10a
B	スーパーミネカル	60kg/10a
C	スーパーミネカル	100kg/10a
D	スーパーミネカル	100kg/10a

ワンポイント営農情報

出荷前に生産履歴の提出を!!

生産履歴は、消費者や納品先に「安心・安全」を届けるための証明書となることから、生産者や地域としての信頼を確保するため、生産履歴の記帳が求められています。

万が一農薬の適正使用違反が発見された場合、使用した生産者だけが罰則を受けるだけではなく、共選で混ざったロット全てが出荷停止命令や回収命令など厳しい罰則が与えられます。そのため、安心・安全の証明や問題の早期発見のために出荷前に必ず生産履歴の提出をお願いいたします。

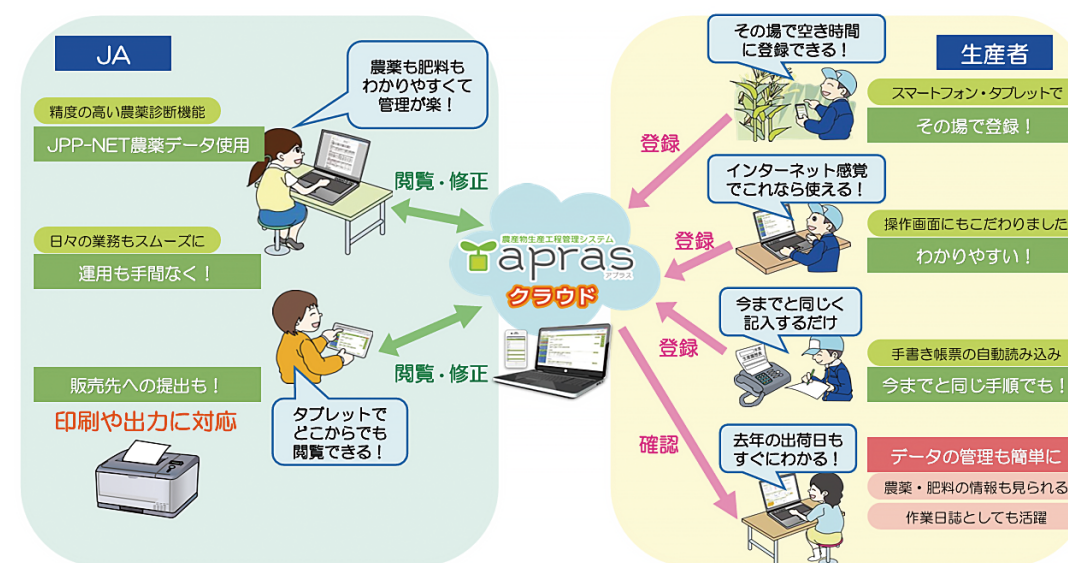
■【例】2016年度 生産履歴帳票

生産者コード 123456	生産者氏名 田中 太郎	電話番号 057-4257	作物コード 111	作物名 ネギ類
栽培方法 1: 1. 播種 2. 育苗 3. 移植 4. その他			栽培区分 1: 1. 播種 2. 育苗 3. 移植 4. その他	
播種日 5/10			収穫日 8/10	
圃場番号 1234			圃場面積 1.50	
肥料管理記録 5/10 1234 5678			5/10 1234 5678	



★生産履歴管理システム「apras」を活用し、
生産履歴をスマホやPCで提出してみよう!

WEBブラウザを使用した生産工程管理システム



○スマホからの履歴記帳で、どこでも入力可能。

○履歴の提出だけではなく、農薬使用基準も確認できる。

右記 QR コードを読み取って、「apras」をダウンロードできます。
携帯のカメラ機能で読み取れます。



スマホアプリは上記のQRコードをご利用ください。

※ログイン方法・パスワードをお忘れの方、新規就農のためIDをお持ちでない方は、JA までお問い合わせください。

令和8年度 組合長会海外視察研修報告

堀組合長は7月7日～15日で行われた令和8年度 組合長会海外視察研修に参加し、オランダとベルギーを訪れた。海外の先進的取組を学び地域農業の発展をグローバルな視点で考察することや、同行するメンバーとの情報交換から考察を深め、地域連帯感を醸成すること、ヨーロッパの歴史的な街並みと地域の発展経緯を学び知見を深めることを目的に行った。

7月7日に新千歳空港を出発し、7月8日午前5時前にフィンランドのヘルシンキ空港に到着、ヨーロッパへの入国手続き後、アムステルダムへ飛行機で2時間かけて移動した。そこからバスで2時間移動し、最初の視察先であるオランダ北東部にあるホンブルグ社へ到着。同社は主に農地の排水に欠かせない暗渠パイプの清掃をする機械の製造販売を行っており、ほかにも完全無人草取りロボット(エコボット)などの独自機械の開発や、他社機器の販売代理店をしていることなどの説明を聞いた。

7月9日、アムステルダムから南西へ2時間かけてナールトウェイック周辺に移動し、ハウス栽培の情報発信と教育、研究拠点として農家が設立した「world horti center」を視察した。同センターは企業・教育機関・研究機関・自治体が連携しており、大学として年間1,200人の生徒が在籍し、4年間で農業系の単位を取得。レストランを併設しており、約150戸の農家が流通業者と商談を行う場として利用。ハウス設備や水供給機材、設備メーカーの常設ショールームとしても利用しており、15～20㎡の実験用ハウスを企業に貸し出し、栽培研究データを取得提供する。学生と研究には国の支援があるが、センターの運営は独自で行っている。同センターからの帰り道で近郊のナスとイチゴのハウスを見学。それぞれ2ha 程度のハウスで選果場を完備している。ハウス内には二酸化炭素を供給し、保温は天然ガスや地下熱の温水を利用し、作物の根元には点滴で水と養分を供給し、天井ミストで保湿している。降雪がないことで大規模な



▲ World Horti Center の外観



▲ Homburg 社での講習の様子

ガラスハウス栽培が可能であり、採算性を重視し、多収量栽培技術の研究に熱心であった。この地域では個人、法人ともに同様の形態であり、外国人労働者も多い。後片付けとハウス内消毒は請負業者が行い、ハウス天井のガラス面を磨く業者もいる。

7月10日から12日はオランダやベルギーの歴史的建造物を視察し、オランダ国立美術館やノートルダム大聖堂の聖母マリア昇天の宗教画を見学したほか、ブリュッセル市内の路上市場を見学した。

7月13日は各種コンベアーの設計製造を行う DEMA 社を訪れた。主力は馬鈴薯の異物除去機。研修ではこの地域の馬鈴薯農家の実態や流通に関する質問が多く出た。この地域ではシストセンチュウ類の対策は行われてなく、倉庫出荷時に水洗いした後、加工工場や小売店に運ばれる。

海外研修を終えて、「オランダ郊外では幅広の水路と高低差の少ない草地で放牧酪農が広がり、水路は土を掘り上げた後、その土を盛り土して耕地を作ったことがわかる。山、丘のない風景が続き低湿地と戦った人々の苦労が偲ばれる。オランダ、ベルギー両国とも風力発電設備が多かったが、日本のような太陽光発電施設はほとんど目にしなかった。耕地の利用に対する基本的な考えの違いであろう」と振り返る。



▲ DEMA 社の機械の前で集合写真

J A 日 誌

2026 9 月

16日 水	厚真神社例大祭 年金友の会連絡協議会 役員会
17日 木	日胆農政対策委員会、作況視察・協賛レース 十勝南地区常参会視察研修受入(7名)、全国 JA 常勤監事研修会～18日
18日 金	第8回企画会議
19日 土	いぶりファームマルシェ(ナチュの森)
20日 日	
21日 月	敬老の日(祝)
22日 火	国民の休日(祝)
23日 水	秋分の日(祝)
24日 木	
25日 金	中央会榊井会長・小椋副会長・平野支所長 表敬訪問 大卒第4クール採用試験、苫小牧厚真会
26日 土	厚真町役場庁舎・文化交流施設建設事業安全祈願祭 2026北海道ホルスタインナショナルショウ～27日
27日 日	
28日 月	
29日 火	
30日 水	

2026 10 月

1日 木	
2日 金	年金友の会連絡協議会日帰り旅行 東胆振物産まつり～4日
3日 土	
4日 日	JA 少年サッカー大会
5日 月	管理総務担当部課長研修会
6日 火	4地区常参会道外研修
7日 水	
8日 木	厚真ダム落水式 第3回 JA 日胆地区女性協議会理事会
9日 金	厚生連 第5回理事会 コープさっぽろ苫小牧地区「米の勉強会」
10日 土	
11日 日	
12日 月	スポーツの日(祝)
13日 火	4地区専務会視察研修～14日 元職員親睦会観楓会～14日
14日 水	
15日 木	ホクレン肉牛市場

令和8年度 新採用職員紹介

令和8年8月1日、新採用職員の辞令交付を行いましたのでご紹介いたします。

【畜産部酪農振興課】

正職員(キャリア採用)
森嶋 亮輔(もりしま りょうすけ)

- ①出身地
②出身校
③趣味・特技
④ご挨拶
- ①岩見沢市
②札幌学院大学
③ゲーム、買い物
④できることと仲のいい人を少しずつ増やして仕事の幅を広げていきたいです。



職員異動 R8.8.31 退職者一覧

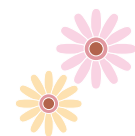
購買部 榎本 早苗 R6.4.15 入組 依願退職

購買部早来・追分購買課早来資材店係、購買部早来・追分購買課追分資材店係、購買部機械燃料課厚真給油所係

R8.8.3 異動職員一覧

- ①窪田 剛士 穂別支所長兼営農農産課長兼
購買部穂別購買課長
- ②松尾 夏樹 企画管理部付審査役

お悔やみ 謹んでご冥福をお祈りいたします。



月 日	地 区	氏 名	享年
8/3	厚真町	本田 弘さん	85
8/3	厚真町	細川けい子さん	77
8/3	安平町追分	富永 勝利さん	59
8/18	厚真町	金山 明義さん	70
8/26	厚真町	保田 政彰さん	83

ホクレン北海道黒毛和種市場

広域農協支所別取引成績(8月)

令和8年8月6日

	性別	成立頭数(頭)	価格平均(円)	平均日齢 / 体重(kg)	平均kg / 単価(円)
白 老	去勢	15	790.933	1.222	2.204
	雌	6	727.000	1.115	2.211
早 来	去勢	20	809.600	1.295	2.274
	雌	8	696.500	1.121	2.089
厚 真	去勢	20	768.550	1.184	2.291
	雌	8	743.375	1.088	2.218
穂 別	去勢	17	767.353	1.168	2.302
	雌	14	715.286	1.070	2.247
追 分	去勢	6	791.500	1.188	2.313
	雌	6	714.667	1.031	2.323
とまこまい 広 域	去勢	78	784.885	1.216	2.273
	雌	42	718.643	1.084	2.216
胆 振 管 内	去勢	160	796.525	1.205	2.283
	雌	84	710.869	1.087	2.186
市 場 計	去勢	844	793.162	1.184	2.337
	雌	550	714.087	1.058	2.278